

7000人の女の鎖で国会を包囲—2015年がスタート

船橋邦子 アバンセ初代館長・北京JAC(世界女性会議ロビイングネットワーク)代表

2015年は、1月17日の「『女の平和』ヒューマンチェーン(人間の鎖)」の大成功でスタートしました。

なんと7000人の女性が、赤いコートやマフラー、手袋などを身につけ国会を二重に取り囲み安倍首相にレッドカードを突きつけたのです。この行動にあわせ、1週間前には徳島で、また東京と同じ時刻に札幌、長崎で、さらにハワイやシカゴでも赤い服を着た人びとの集会が開かれました。

風は冷たく底冷えのする寒さにも負けず、女性たちの怒りのエネルギーと平和への思いが充満した2時間の抗議行動でした。4回の人鎖の間に国会正門で語られた沖縄から参加された宮城晴美さんの「沖縄は無人島ではないのです。140万の人が暮らしているのです」との訴えや福島の武藤類子さんの「福島にはミサイルはないけれど、戦地と変わらない」というメッセージを心痛の思いで聞きました。神田香織さんの「失望すれども絶望せず」「呆れても諦めず」には励まされました。

翌日、東京、朝日、毎日、神奈川新聞、赤旗が報道し、東京新聞は20日「女の鎖、赤は平和を求める怒り」と社説で論じました。

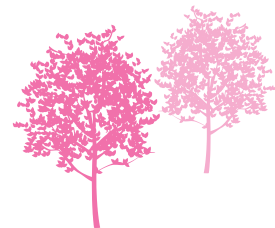
「平和を求める女たちの怒りは、池に投げられた小石が水の輪を描くように広がった。呼び掛け人は三百人を超える。新聞報道のほか、フェイスブック、個人ブログなどで参加が呼び掛けられた。動員もなく、七千もの人が集まったのは、強い危機感の表れだ。中略 「女性の活躍」をアピールする安倍首相に女性たちが訴える。女性の活躍は、戦争のない国、人権が守られる国であってこそ、と。」

今回の企画は、集団的自衛権の行使の閣議決定や衆議院選挙での安倍首相の勝利に不安と怒りを抱いた数名の女性たちが動くことから始まりました。12月25日に記者会見をしてわずか4週間足らずの行動でした。私も正月明けに呼びかけ人となりましたが、国会



昨年11月29日、アバンセ開館20周年記念セレモニーに来佐の初代館長船橋邦子さん。

本会では当日、「北京+20」のテーマで船橋講座を開催しました。



を取り囲むには2500人は必要なので正直、不安もありましたが7000人の女性から勇気と希望をいただきました。

2015年は北京JACにとっては重要な年です。「婦人参政権」獲得から70年、女性差別撤廃条約批准から30年、ミレニアム開発目標の最終年で、新たに持続可能な開発目標の制定年、3月には仙台で国連第3回世界防災会議も開催されます。第4次男女共同参画基本計画の策定の年でもあります。課題は山積していますが、あせらず、気負わず、機嫌良く皆さまとの協働作業を楽しみたいとおもいます。今年もどうぞよろしくお願ひします。

2014(平成26)年度 第19回通常総会報告

理事 内田 信子

「女性参画研究会・さが」の第19回通常総会が5月31日アバンセにて開催されました。

佐賀県女性議員政策研究会盛会長や佐賀県男女参画・県民協働課野中課長、佐賀県立男女共同参画センター川久保副館長に臨席いただきました。

総会では、まず山崎理事長が「1995年にアバンセが開館し、来年で20年を迎えます。佐賀から女性の翼の皆さんなどが北京女性会議に出席した年でもあります。

参画研究会・さがは、北京女性会議 NGO フォーラムに参加をきっかけに、男性視点への偏った見方を改めていきたいとの思いで発足し、まずは『女性議員を増やそう』とのキャッチフレーズのもと活動をスタート。2002年に特定非営利活動法人の認定を受けました。本年は、あらゆる政策決定の場に女性をとの思いで活動してきたが認められ、長年、理事長をつとめられた山下史真子さんが男女共同参画分野で県政功労賞者の知事表彰を受賞されました。また、山北萬里子さんも長年の地域での男女共同参画活動により知事表彰を受けられました。来年は北京女性会議から20年の節目を迎えることから、今年は「北京+20」を見据えて活動していきたい。」と挨拶しました。

来賓の皆様からは、佐賀県女性議員政策研究会盛会長より「女性議員が一番多かった時に比べ減っています。原因は市町村合併。NPO法人になってから、選挙の応援ができなくなったのは残念。上手な形でクリアできる方法はないのか一緒に検討していければと思います」、また、佐賀県男女参画・県民協働課野中課長より「少子化、人口減少化、我が国の経済活性化などの鍵は女性が握っています。佐賀県では202030運動を展開して、2020年までに指導的地位に女性の占める

割合を30パーセントにしようとしています。審議会の女性の比率は40パーセントをキープ。庁内も50パーセントを目指し頑張っていきます。世界に目を転じると、女性の地位は世界188国中、日本は158位と低く、県内でも県議会でも県議会議員は1人。県内の女性議員は全体の1割にも満たず、研究会のさらなる活動に期待しています。」と、アバンセ川久保副館長からは「まだまだ女性議員が少なく数や率は大切だと考えます。あるところまで増えると勢いがつきます。県内でも男女の役割に入れ替わりが見えてきています。これからの若い人たちにも見える形で一層活動を進めて欲しいと願っています。」と祝辞をいただきました。

このあと、議事審議に入りました。

まず25年度の事業報告及び会計報告、監査報告がなされ、26年度の事業計画及び収支予算が提案されました。この中で「北京 JAC 九州の事務局」を今年度と来年度、佐賀県の「女性参画研究会・さが」が担当することで決定した旨が山崎理事長より報告されました。なお北京 JAC 九州の会長は事務局担当県が持つが、北京 JAC への世話人は出さないとの約束で受諾したことも併せて報告されました。また役員改選については、長いこと理事をつとめられた羽根理事の辞任と他の役員全員の重任が承認されました。その後、理事長山崎、副理事長内野・高島各氏を再任。総会はずべての案件を承認し、終了しました。



佐賀県男女参画・県民協働課野中課長よりお言葉をいただきました

大町町議としての私

大町町 町議会議員 藤瀬 都子

私が大町町議会議員としての活動ができるようになったのは、現在住んでいる高砂地区から初めて出馬された方の応援をして、2期目を終えられる頃、今度はあなたが立候補をしてはと言われたのがきっかけでした。

はじめて選挙の応援に参加したのは、高校を卒業してから実家の仕事を手伝って居る時に頼まれて街演車に乗りました。連呼の仕方にも挨拶を取り入れ、気を配りながらやってきた経緯があります。

結婚してこの高砂地区に家を建て、子どもが育つなかでこの地域で生涯を終えるなら、地域で楽しく、仲良

く力を合わせて生活して行きましょうと力を入れて応援しました。

その応援を聞いて、背中を押していただき、夫と家族の協力を得て平成7年立候補、当選できました。しかし平成11年、2期目を目指しましたが残念ながら落選しました。私自身の地域活動の反省をしながら、平成15年再び立候補、現在4期目の大町町議会議員としての私があります。私が背中を押していただいたように、いろいろな場に赴き、私が背中を押してあげられる方を探しながら、これからも元気いっぱい活動していきます。

「女性の働き方が変わる？」

理事長 山崎 和子

「残っているのは大変難しい論点ばかりだが、大胆に決断し、実行に移していきたい。」と語っていた安倍総理。6月下旬、3本目の矢が閣議決定されました。

改訂された成長戦略では、「女性の活躍」に向け、働く母親を支援する「放課後児童クラブ」の拡充や、企業への女性役員比率開示の義務化が盛り込まれました。労働人口が減少する中、女性の就労を促し経済成長を支えるのが狙いのようです。

ただ、安倍総理が意欲満々で、改訂戦略の「目玉」となるはずだった「配偶者控除の廃止」には大きな壁が立ちほだかり、結論は年末に先送りされました。

経済協力開発機構（OECD）が、加盟34か国の雇用情勢をまとめた「雇用アウトック2013」によれば、日本の25～54歳の女性の平均就業率は69%にとどまり加盟国中、24位（ちなみに男性は2位）となっており、日本の政府、企業等に「人的資源のフル活用が、将来の経済成長を実現する手段」と女性の就業を支援するよう促しています。

さらに、日本の女性の就業率が低いのは、第一子出

産後に約6割の女性が退職するためだといわれています。2000年に比べ5.6ポイント改善しているものの、この改善分の多くはパートタイムなどの非正規雇用が占めています。

日本は正規雇用と非正規雇用の待遇格差が大きい。OECDは「出産後に再び働く意思のある女性にとって雇用の魅力が乏しい」と指摘しています。

そもそも女性の就業率が低いうえに、出産を機に6割が仕事を辞め、女性の管理職の割合も先進国中、最低のレベルの日本ですが、安倍内閣の「女性の活躍」に向けた取組がこれらの起爆剤になるのでしょうか。「女性活用を成長の原動力に」が実現するのでしょうか。「働きたくても働けない」女性が減るのでしょうか。

いずれにしても、政府が期待している少子高齢社会に対応する労働力の確保、世界に恥ずかしくない女性管理職の割合を実現させるためには、職場だけでなく社会全体の意識改革が必要、不可欠だと思います。

県内女性県内女性議員との意見交換会（総会后）

【出席】

嬉野市……芦塚典子

武雄市……猪村利恵子

大町町……藤瀬都子

神崎市……原口ひさよ

白石町……内野さよ子

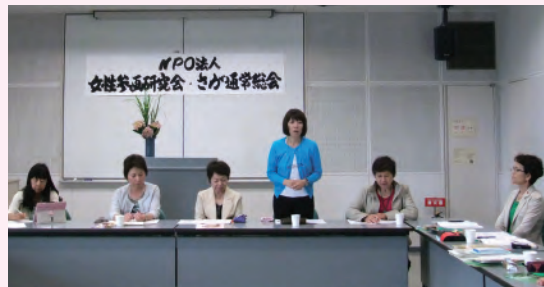
伊万里市……盛泰子



■新議員となった武雄市の猪村利恵子さんは、夫との「バトル」を経て出馬を決意。区長さんらの協力を経て当選。現在は夫にも大変協力してもらっているとの報告を行い、参加者から励ましの拍手を受けました。

■4年ぶりに復活当選した嬉野市 芦塚典子さんは「4年前に落選したときに自分は必要ないと思い婦人会長を引き継いだ。しかし議員でないと、頼っても行政は冷たい態度で、出馬を決意。女性がいないと議会は停滞する。女性の声は大事」と発言。会場から賛同の声が寄せられました。

■伊万里市の盛さんから「女性議員も量より質の時代に入った。女性だから、男性だからではなく、自分ではどうかということが問われていると感じている。いつか女性議員が同じテーマで質問したいと考えてきた。まさにぴったりのテーマが見つかった。原発の避難計画



活発な意見交換が繰り広げられました

を皆さんの市町は受け入れ先になるのに、まだまだ他人事ようだ。できれば女性議員の皆さんにはこの問題を一般質問に加えてほしい。」と統一行動を呼びかける提案がなされました。

■山崎理事長は、女性議員の皆さんと今後も連携していきたいと述べ、議員の皆さんの参加への感謝と激励の言葉を送りました。

一人ごと

理事 高島春江

集中力の衰えが非常に気になる後期高齢者となり、書くことや理解することにも自信がなくなってきた自分を持って余しながら、この会に在籍した期間を振り返ってみる。印象に残るのは良く学んだこと。いや学ぶチャンスがつくられた事と言うべきかも知れない。

定例勉強会、バックアップセミナー、公開講座、町づくりや基本法、行動計画、条例等々とても数え切れない。又、法人化する前は、立候補する女性の支援活動にも参加して色々学ばせていただいた。前進するこの会の邪魔にならないようにと密かに考えながらー。

そして今、20年近い学びを如何に生かしているか考える。実に情けない話になってしまう。何一つ誇れるも

のがない。学んだ事が自分自身のものになっていないのか？どこかに一生懸命だったところが無かったのかも知れない。ノソノソと人の後をついて歩いていただけかも知れない。こんな反省を今頃するはずではなかった。私は私なりに知り得た知識をまわりの人に伝えたり、一緒に行動もしたのではないかと、とも思ってみる。一人言が愚痴になり、つまらないなあ、とため息をつきながら、

ふと思い出した言葉「男女平等は最大の福祉である」と、どなたが言われたか忘れてしまったが、まったくその通りだと信じている。男性優位の環境に居て私に残された時間は少しでも役に立てるよう日々の暮らしの中で歩を進めていこうと思う。

女性参画研究会・さかの歩み

その5

理事 山下史眞子

ジェンダー川柳かるたブーム

県民一般に「男女共同参画意識を啓発する方法（しかも遊びながら）を模索していたところ、ヒントはニューヨークにありました。

2000年国連特別総会に参画した私たちは、同じフロアで広島のグループが「かるた」を紹介されているのを目にしました。そうだ！あの「かるた」をジェンダーの視点で作ってほしいと思いつき、平成11年度、12年度に「ジェンダー川柳かるた」の募集を致しました。

趣旨が分かってもらえるかと心配しましたが、北は北海道から熊本から380句が集まりました。

面白かったのは、1年目「真珠婚いまだ名がない おい！のまま」だったのが2年目には「おい！と呼ぶ声に答えぬ妻となり」「仲人のスピーチ私に言わせてよ」と内容が変化してきたことです。選考会を開き44句を選びました。選者には川柳作家で佐賀新聞の選者の菖蒲先生や、佐賀新聞文化部次長などをお願いしました。大きさも取りやすいように普通のかかるたより大きくA5版にしました。

こうして「ジェンダー川柳かるた」は出来上がり、新聞報道された途端に我が家の電話は鳴りつぱなし、反響の大きさにビックリしました。「社会教育課」や「教育委員会」「老人会」などからの申し込みが多く、大きいので取りやすいと評判でした。

200部はアツという間に売り切れ、購入希望が多く、

平成16年に「NPO推進機構」の補助を受けて改定版を増刷しました。「諸富中学校」では授業に取り上げてくださり、私たちの総会では、勝ち抜き戦で大いに盛り上がりました。このかるたがいささかでも啓発に貢献できたのではと自負しております。



ジェンダー川柳かるた

編集後記

2015(平成27)年になりました。佐賀県では年末の衆議院選挙に続き年またぎ選挙となり、山口祥義知事が誕生しました。現場重視、危機管理の専門家という知事に私たち県民が日々、安心安全で暮らせるように期待したいと思います。梅の花の開花、落のとうも芽吹いています。春がそこまで来ています。(K)